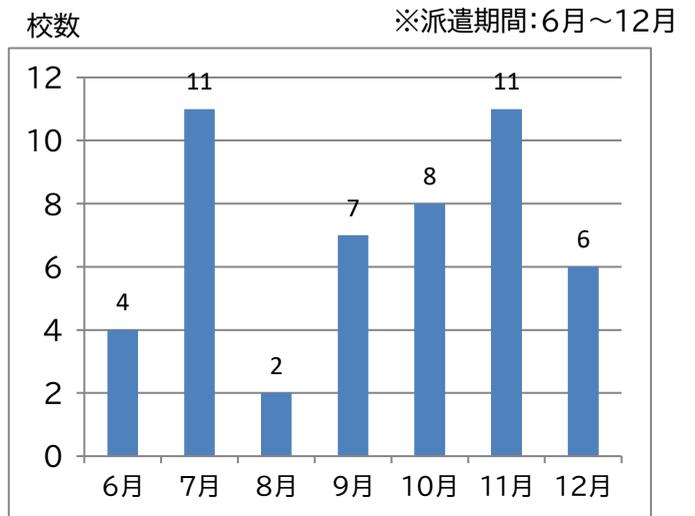
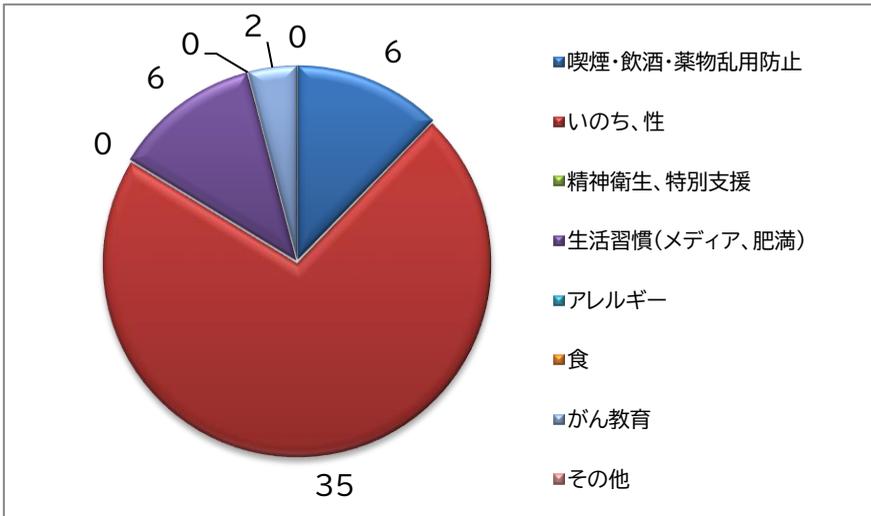
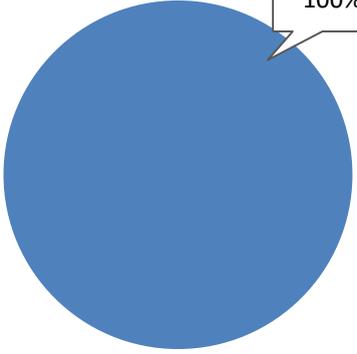
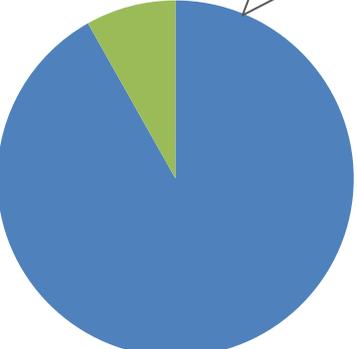
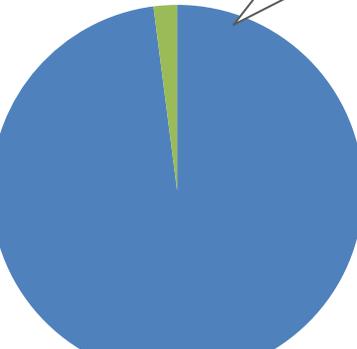


令和5年度 子どもの健康づくり連携事業 専門医の派遣実践のまとめ(一部抜粋)



実施校	専門医の領域	内容	対象	感想	
1	緩和ケア	がん教育	5年生	○がんになる原因がたばこだけでなく、食べ物(からいものや塩分)のとりすぎでもなることを知った。 ○両親にがん検診をうけているか聞こうと思った。 ○友達や家族がもし、がんになったらそばでよりそってあげたい。	
2	産婦人科	性のいのち	6年生	○専門の医師にいのちの始まりの話聞くことができとても勉強になった。 ○男性、女性と決まりきった性別ではなく、色々な性についての考えや個人差があることを聞いて安心し、性の多様性について考えることができた。 ○異性だけでなく同性との関わり方、距離感などについても学ぶことができた。	
3	小児科医	生活習慣(ネット依存)	保護者教職員	○自分は入眠まで時間がかかるし、ゲームなどを遅い時間にやるので「起立性調節障害」の3歩手前なのかとあせったので気をつけようと思いました。(子ども) ○たまに月曜日に頭痛がある。スマホを「3時間使うと学習が無駄になる」は驚きで「その後の脳は回復しないだろう」というお話はショックでした。もう一度子どもとルールを話し合います。(保護者)	
4	中学校	精神科	生活習慣(依存症について)	3年生	○薬物やネットゲームやSNS依存は、楽しさを求めるだけでなく、ストレスや悩みによって引き起こされるものだと知ることができた。 ○依存症には記憶力や集中力の低下などの後遺症やフラッシュバックや妄想が出現することを知った。
5	中学校	泌尿器科	性・いのち	1年生	○男女で脳の考え方に違いがあることを知ることができたので、お互いを認め合っていくことが大切だと知った。 ○LGBTのことについて何となく知っていたが、今回の講演を聞いて詳しく知ることができたので良かった。
6	高等学校	産婦人科	性・いのち	全校生徒	○正しい知識を持ち生活していくことは大切だと思った。また、コミュニケーションや助けが必要な時は、しっかり伝えていくことを大切にしたい。 ○もう少しで社会に出て責任を持つ年齢になるため、自分自身の行動に責任を持ちたいと思った。また、感情だけで行動するのではなく、相手の気持ちを考えて人間関係を築いていきたいと思った。
7	高等学校	内科	喫煙防止教育	1年生	○先生に聞いたことを親に話してみても、少しは吸うことを減らしてくれるかなと思います。 ○ニコチン依存者はタバコに洗脳されているのだと感じました。 ○母は喫煙者です。母にはがんになって欲しくないでタバコ以外に楽しみを見つけしてほしいと思いました。
8	特別支援学校	小児科	メディア	保護者教職員	○メディア使用のデメリットは、様々耳にしていながらも、なかなかルールを決めてもルーズになりがちで、常に気になっていた課題だった。今の子どもたちはメディアを切り離すことは難しいと思うので、睡眠時間や外遊び、目を休める等ポイントをしっかりおさえて上手にメディアとつき合っていきたいと思った。 ○本人の意思を聞かずルールを作っていくことに反省した。子どもの好きなメディアを知って話をし、そこから話題を広げていくことも大切だと思った。 ○ルール作りは一方的にならないよう、児童と一緒にわかりやすく考えていきたいと思った。

令和5年度 子どもの健康づくり連携事業（専門医の派遣）報告書より

<p>健康課題解決について</p> <p>■ 有効 ■ 有効でない ■ 評価なし</p>  <p>有効 100%</p>	<p>○がんについて学び、がんと向き合う人々を支える医師の話を聴くことにより、自他の健康と命の大切さに気づくことができました。</p> <p>○思春期の体の変化や成長を自分事として感じ、人と自分を比較しがちな頃となった今の時期に、心の成長や感じ方は人によって違うことや、いのちの誕生は奇跡的なことであること、ジェンダーも含めみんな一人一人違っていいこと、互いがとても大切な存在であることなどをお話いただいたことで、人と比べる必要はないことや、自分や人の命の大切さや尊さを考えるいい機会となった。</p> <p>○薬物の中には、市販薬も含まれていることやより刺激の強いものを欲することの危険性を学んだ。</p> <p>○ネットゲームの対戦型はパターン化しないために飽きることがなく、SNSは承認欲求に応えてくれるため、女子が依存しやすいことを知ることができた。</p> <p>○身体的な性差のほかに、思考や感覚にも性差があることに気づかせ、多様な性について理解を促す内容であったため、多様性について最新の研究成果をもとに生徒のみならず教職員も理解を深めることができた。また生徒に対して体のことで悩んだ時の相談先の一つとして泌尿器科があることを提示できた。</p> <p>○「早寝・早起き・朝ごはん、自らメディア・コントロールできる子ども」をめざした取り組みの一環として、親子一緒に、ねらいに沿ったお話をお聞きすることができた。</p> <p>○タバコの有害性、中毒性、薬物性について理解することができた。タバコや自分の人生選択について興味関心を喚起した。自分や家族の問題として捉え家族に提言しようという行動化がはかれた。</p>
<p>校内の組織づくりについて</p> <p>■ 有効 ■ 有効でない ■ 評価なし</p>  <p>有効 92%</p>	<p>○外部講師によるがん教育は、3年目になり、がん教育の必要性が認知されてきている。講師謝礼についても予算化できるようにしていきたい。</p> <p>○昨年度、校内における性に関する指導の「基本的な考え方、全体計画、学年の指導のねらいや項目を見直した。そこで外部講師を招いて指導いただく学年(項目)を位置づけ継続して系統的に学ぶことができるように推進する機会となった。</p> <p>○講演会を通して講師選定の段階から養護教諭や学校医と相談することによって、学年団の課題を共有することができた。学年団で役割を分担し実施することができ、今後の学年・学級指導の方向性を共有することができた。</p> <p>○養護教諭・保健体育科と連携し、生徒の実態を踏まえて、それぞれの点からお話しいただいたことを企画書としてまとめることができた。企画の立案から実施まで組織で取り組むことができた。</p> <p>○指導部において計画立案を行い、当日は学年部で運営を行う等、組織的に取り組むことができた。授業参観日に親子学習という形で実施することで、親子一緒に健康課題について考える機会となった。</p> <p>○事前アンケートを行い、配慮の必要な生徒を把握するとともに、アンケート結果を全職員で共有し、共通理解を図りながら実施した。</p> <p>○年次、生徒保健課と連携し実施した。また、生徒保健委員会が運営を行う学校の継続事業として認知されている。</p>
<p>校外の関係機関との連携</p> <p>■ 有効 ■ 有効でない ■ 評価なし</p>  <p>有効 98%</p>	<p>○子どもの健康づくり連携事業をきっかけに、専門医とのつながりができ、来年度以降も講師をお願いすることができた。</p> <p>○市内の小中学校で多くの講演をされている方をお願いすることができた。事前打ち合わせもしていただき、本校児童の実態や指導のねらい等を担任と確認したうえで話しいただいた。</p> <p>○事前の打ち合わせで、学校現場の困り感などを相談することができた。思春期の生徒における具体的なケース理論と対処のアドバイスをしていただいた。</p> <p>○学区内の病院ということもあり、企画の段階から病院側の担当者と連絡を密にすることができた。</p> <p>○メディアコントロールについては、中学校と連携した取り組みを行っている。健康教育についても9年間を見据えた計画の見直しを行っているため、専門医の講話は参考になった。今後も専門医とのつながりを大事にしていきたい。</p> <p>○がんになる原因がたばこだけでなく、食べ物（からいものや塩分）のとりすぎでもなることを知った。</p> <p>○両親にがん検診をうけているか聞こうと思った。</p> <p>○喫煙防止教育を継続してきた実績から実情に合わせた講演となり教育効果が大きい。</p> <p>○イエローグリーンキャンペーン模擬コーナー作成によって広報活動のイメージをつかんだ。</p>